

しかし、実際に小名浜魚市場に水揚げされた平成12、13年級群は、それぞれ76t、74t（10月～翌年3月までの漁獲量）で年級群別の漁獲量に大差はなかった（小名浜漁協、小名浜底曳網漁協の統計では、本種の小型魚をミズタラとして分類していることから推測できる）。本種の主産卵場として仙台湾が想定され、新規加入群の主な補給源になっているものと思われる。そのため、0才魚の分布状況を仙台湾から大きく離れた塩屋埼1定線のみでの調査で把握することには無理があるものと思われた。

ウ. エゾイソアイナメ

ア) 採集状況

エゾイソアイナメは100、150、200、300、500m深で採集され、このうち100、150m深では採集数が多かった。

イ) 採集サイズ (図6)

平成12年11月以降に全長50～70mmの小型魚がまとまって採集され始めた（便宜上、平成12年加入群とする）。この群の全長モードは、平成13年5～6月が80～90mm、平成13年11、12月が90～110mm、平成14年3月が110～150mmに見られた。一方、平成11年に加入したと思われる群（便宜上、平成11年加入群とする）の全長モードは、平成12年9、10月が100～110mm、平成13年7、8月には200mm前後に見られ、平成12級群もこれと同様な成長を示せば、平成14年末には200mm程度に達するものと思われた。

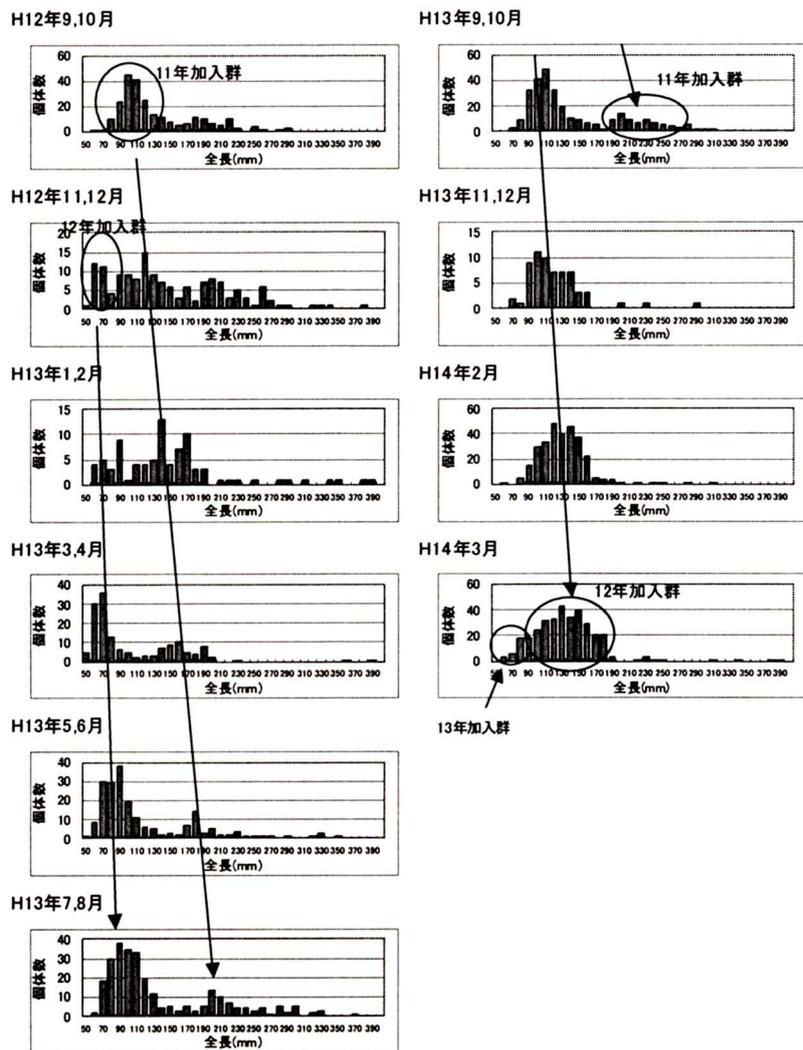


図6 エゾイソアイナメ全長組成

実際に魚市場に水揚げされている本種の最小サイズは25cm前後であり、この小型群が当海域に出現してから漁獲加入するまでに2年以上を要することが推測された。

ウ) 分布密度 (図7)

平成11、12年加入群の分布密度は、平成12年加入群の方が大きく上回る。この群は平成14年末以降漁獲加入すると思われる、今後の漁獲量の推移を観察したい。本種の産卵海域は、伊豆諸島周辺から相模湾との報告があり、アオメエソと同様に本県海域で再生産を行っている